



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2021年2月1日

2月 第228号

奈良・人と自然の会



＜みんなで優しく剪定した梅、今年もきっとたくさんの実が・・・＞



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	やさしい病虫害講座	9
Monthly Repo ならやま	2	Galleryならやま	10
里山の今	3・4	ならやまプロジェクト	11
初出・記念植樹・レポ	5	仲間入りしました	12
私のふるさと	6	行事案内	12
ならやま里山林の来しかた、行く末	7・8	幹事会報告・編集後記	13



青洲の理念

会長 鈴木 末一

まさか2回目の全身麻酔手術を受けるとは思ってもいなかった。11日間とは言え、入院生活を通じて心に強く刻まれたことがある。

全身麻酔と言えば、江戸時代に「医聖」と言われた和歌山県紀の川市出身の医師、華岡青洲のことを忘れてはならない。青洲は世界で初の全身麻酔を使った乳がん摘出手術に成功した。

その偉業を顕彰する紀の川市の「青洲の里」には、青洲が建てた住まい「春林軒」がある。診療所兼医塾でもあった。隣に青洲の正座姿の像と、理念とした「活物窮理」という文字を刻んだ碑が建つ。

紀州藩主、徳川治宝に見いだされ、城下に住むよう求められたが、「我仕官を望まず」と拒み、故郷での治療に専念した。門下生が医塾の卒業時に手渡される青洲の自画像には、漢詩が添えられていた。「田舎に住むのが私に合っている。ただ思う事は、瀕死の患者を救う医術のことだけだ。高価な着物やぜいたくは望まない」と、青洲の生き方そのままの漢詩だ。医師としての心構えを諭している。



青洲が理念とする「活物窮理」は「治療の対象は生きた人間であり、それぞれが異なる特質を持つ。外科を行うには内科、即ち患者の全身を診察し、十分に把握したうえで治療すべきだ」という意味を持つ。

私事にわたり恐縮ですが、今回の治療は後縦靱帯骨化症と言います。指定特定難病医療の受給者です。前回は頸椎の第2から5、今回は第1頸椎の後縦靱帯骨化症です。前回は救急入院でした。今回は術前の検査を多岐にわたり受診、十分に時間をかける事が出来た。

医療技術や機器類も格段に進歩していることであろう。とは言っても、患部の位置が位置だけに高いリスクを考えれば、綿密な全身状態とともに、手術部位周辺の頭部から頸椎にかけてはとりわけ詳細な状態把握が求められたという。スクリーンに投影した画像などによる説明もあったが、すべてドクターに委ねるしかない。

手術前の丹念な検査。青洲はすでに江戸時代、「内外合一 活物窮理」で「一部分の手術でも全身を診察することが大切」と唱えていたのだ、と改めて感じ入ったものだ。

前回は、病室で麻酔薬などの点滴を受けた。今回は徒歩で手術室へ行き、室内の様子を見回しながらベッドに横たわり、麻酔薬の点滴が始まった。「はい、手術は終わりましたよ」の声で目が覚める。約4時間経っていた。

術後2日間の絶対安静の後、3日目には早くも歩行器を使うリハビリが始まる。良い意味での身体の“違い”に気が付く。ドクター以外には話したことがない三か所の痛みなどもない。「手術だけで3時間かかりましたが、よかった」。ドクターは、あっさり言っただけ。ほんとした半面、やや複雑な心境になった。

定期検診で骨化症が見つかり、放置しておくとう間違いなく歩行困難になる、と断言されたのは昨年3月。この言葉を受け、手術のタイミングを熟慮。9月の定期検診で遂に12月の手術を決意。終始、ドクターが私に寄り添い、私の身になって診療に当たってくれたお陰だ。

与えられた人生、心身のバランスを常に保ちつつ、自分ができていることに精いっぱい頑張らねばならない。長く二人のドクターが寄り添ってくれた心が何よりも嬉しい。感謝は尽きない。

Monthly Repo. **ならやま**

徳地 恵男

12月24日(木) 活動 曇り 72名

今年最終の日となる。活動は半日。各グループでミーティングの後、倉庫の片付けと整頓、周辺の掃除を行う。大きく立派な門松が入口に

作られ、手作りのしめ縄も飾られて新しい年を迎える準備が整えられる。終礼では会長よりコロナ禍の中で自粛期間もあったが無事に活動が続けられたことへの感謝とお礼の挨拶がある。今年入会された方に感想を聞くと「皆さんと活動できて本当によかった。みんないい方



で人生勉強にもなります」と答える。「よいお年を」と声をかけあい、大きく育った野菜や葉ボタンをかかえ、各自家路へと向かう。

1月7日(木) 活動 曇り後雨 71名

新しい年が始まる。朝の会で会長の新年の挨拶がある。今年は本会20周年となり記念事業が企画されている。コロナ感染で心配な面はあるが、やるという意気込みをもっていこうとの話。毎年餅つき

の行事があるが七草粥のみとなる。七草はならやまフィールドで花



班が野草を摘み、炊事・水当番がお粥を炊く。午前各グループ打合せの後活動に入る。昼前

から雨模様となり、BCに戻るころには冷たい霰まで落ちてくる。大釜で炊きあがった熱々の七草粥を一緒にいただく。外は寒いが体も心も温まる。午後から記念植樹が予定されていたが、雨がやまず中止となり次週に延期される。

1月14日(木) 活動 晴れ 75名

近畿大学 北川先生、学生3名

寒い日が続いてきたが、明るい日差しの陽気となる。朝の会では新春ならやま研修会の案内がある。午前中里山Gは榎木の作成、マキ棚周辺の整備、クラブ・ユートピアはツツジの剪定と下草刈りを行う。エコGはダイコンなど野菜の収穫、景観Gは実りの森の竹林整備をする。

ビオ班は全体の点検、花班は草花の霜よけを作る。パトGは丸太階段の改修、メンテ班は展望



広場の整地と枕木の施設工事をする。果樹Gは梅の剪定を行う。

昼の食事と野菜販売の後、歩いて実りの森まで移動する。午後1時半から10年継続会員を顕彰して植樹式が実施される。皆に囲まれなが



ら継続会員が富有柿の苗一本を植樹する。喜びの声と大きな拍手にお祝いの会は大いに盛り上がる。植樹式の後には解散となるが、展望広場の真砂土搬入は、その後も続けられる。

パトロールグループ

◆ならやまの冬芽

坪井 都子

ならやまの里山に4つのパトロールコースを設け、コースの点検や整備、植物の観察(希少植物の保護を含む)等を行っています。

今、季節は冬。落葉の樹木はすっきりした姿の樹形を見られるだけでなく、冬芽との出会いという楽しみもあります。

「ならやま」で見られる冬芽は
オニグルミ・アベマキ・アカメ

ガシワ・ネジキ・コシアブラ・
タカノツメ・カラスザンショウ・ネジキ等々
です。

寒くて生育に適さない季節に樹木の葉や枝、花などが一時生長を休んで休眠する時に、次の生長に備えて準備された芽が「冬芽」です。冬のない熱帯地方でも、雨季と乾季に分かれている所では成育に適さない乾季に、冬芽とよく似た休眠芽を作るといわれています。



オニグルミの冬芽と葉痕



カラスザンショウの
冬芽と葉痕

「頂芽」は伸びてきた枝の先端に作られた芽で普通、側芽より大きいです。また「葉痕」は時に顔のようで面白く可愛いです。

因みに「三大美芽」は、ネジキ・コクサギ・サイフリボクといわれています。

《参考文献；「冬の樹木」村田 源・平野弘二》

《タカノツメの写真；木村 裕氏からの提供》



エコファームグループ

◆畑にアンドンって・・・？

藤原 勲

2018年1月に奈良・人と自然の会に入会させていただき今年は三年目に入ります。

私がエコファームグループに入ろうと決めたのは、今までの自分自身の経験や生活習慣と農業とは最も縁遠く、知らない事ばかりだったのですが、自然の中に身を置いて物作りをする事に憧れのような気持ちがあったからです。

野菜などの葉っぱを見ただけでは何の野菜かも分からず、名前と現物が一致しないのは当たり前、ましてどのように作り、育てるのは全くちんぷんかんぷんでした。

マルチって何？(マルチ商法と関係あるの？)

アンドンって何？(畑で行灯何に使うの？)

セツカイをまく？(なぜ畑に石灰をまくの？)
等々列举すれば恐らく1頁使っても書き尽くせません。毎朝作業開始前に当日の予定や作業内容の説明がありますが、何を準備したらいいのかどのように作業をすすめるのか、唯々メンバーの後について見様見真似で体を動かしていました。「聞くは一時の恥」とばかりに作業をしながらも質問をして皆さんにあきられたり、ご迷惑をかけたりしてきたと思います。

しかし土を耕し、水をやり、肥料をまき、雑草を取り、小さな種から日々生長していく米や野菜を見ていると、自然の不思議、生命の尊さに感動を覚え、それらを育てることに少しでも関わることができこれ以上の喜びはありません。昼にはとれたての野菜の入った美味しい豚汁などいただきながらの楽しい会話や、気持ちの良い汗をかき1日を元気に過ごせるのは大変嬉しく、これからも暑さや寒さやコロナにも負けず農作業を続けていきたいと思っています。



景観グループ



果樹グループ

◆ 竹林整備

永井 幸次

毎年11月から3月までの間、竹林整備があります。春には竹林の中まで明るくなるぐらい整備したのに、今回は例年になく竹の成育が良く、竹林の中は暗く見えました。

11月から協働作業と里山Gの協力で立ち枯れの木の伐採、ゆがんだ



竹や密集している竹、枯れた竹の除去をしました。佐保自然の森の竹は太くて硬く、切り倒す作業は大変でした。さらに切り倒した竹を一定の長さに切り所定の場所にきれいに整理することも大変です。

竹藪の中が暗くなりすぎると竹の地下茎はやぶの外に伸ばすの



で、明るいところにもタケノコが始めます。1本の竹の寿命は20年ほどですが地下茎に栄養を蓄える生産性は5~6年目までです。竹類の成長は速く、ピークの時は一日で1メートル以上成長します。もともと植生していた広葉樹や針葉樹の光合成が妨げられ、結果として森林の減少を招くという問題が起こっています。孟宗竹の地下茎は1年に5メートル伸び、竹林は年に1.5~2.0m拡大するといわれています。タケノコは2年目の地下茎から発生することから、地下茎はタケノコが発生した場所よりさらに先に伸びていることになります。よって、タケノコを採った一か月後ぐらいに、竹林整備をすると11月からの整備が楽だと思われます。

◆大菊 福助つくり

川勝 孝雄

10年前より友達の勧めで大菊作りを始めました。福助作りは狭い庭でも短期間で(約100日)で楽しめますがなかなか上手く咲かせることができません。

5号鉢(2L)で高さ45cm以下に作ることが決められていますが大輪が咲きます。

菊作り全国大会で入賞されている加藤会長(檀原菊花愛好会)にめぐり合い、自宅に呼んでいただいて庭にある大菊の生育状況を見ながら、栽培暦にしたがって、土作り、肥料やり、消毒について丁寧に指導いただきました。

水をやり過ぎても少なすぎてもいけないことを教わり、水加減を考えながら、菊の気持ちになって作ることが大切であることがわかりはじめました。

去年は新型コロナウイルス流行のなかの栽培となり、挿し芽をしたもののどうなるか不安の毎日でしたが、檀原神宮外拝殿前広場で開催される第36回檀原菊花展は中止にならず出品することが出来ました。

菊花展をご覧になった方々の中には、大輪菊のあまりの大きさに驚かれ、こんな立派な菊を初めて見ましたと話しかけてくださる方もおられ、菊を背景にして写真撮影をしておられる、七五三、お宮参り、結婚式と、人生の晴れの舞台の日に花を添えることができました。

天候不順に悩まされ大変苦勞をしましたが出来栄の良いものを福助花壇部門に出品し、檀原神宮宮司賞を受賞しました。

福助をさし上げた大先輩からは俳句のお礼をいただきました。

菊つくり菊見る時は陰の人

初出式と七草粥

徳地 恵男

令和3年の初出式は1月7日。コロナ感染拡大の心配があったが71名の元気な顔が集まった。例年は餅つきがあり祝い酒も振舞われるが、今年は七草粥だけになる。粥にいれる



七草の用意は、毎年花班に担当していただいている。朝の打合せの後、集める草の名前と特徴を確認し、班員みんなで採集した。セリ、ナズナ、ゴギョウ(ハハコグサ)、ハコベラ(ハコベ)、ホトケノザ、スズナ(カブ)、スズシロ(ダイコン)の七草。田畑の畔や水路を探しながら、地面に這うように生える野草を花班の皆さんに集めていただいた。午前中の作業の後半になると雲が厚くなってきた。ベースキャンプに集まるころにはみぞれ混じりの雨となった。天気

の回復を待つがそのままお昼の時間になった。粥ができあがり、最後に七草を入れる。

「お粥ができたよ」の声。寒さの中熱々の七草粥を頂い



た。湯気とともに若菜のいい香りがする。外は寒いが体の中は温まる。そして心の中も。今年一年健康で過ごせますように、「ならやま」の豊作も願って美味しい粥を堪能した。

10年継続会員 記念植樹式

徳地 恵男

今年の10年継続会員は、大澤教男さん、木村宥子さん、桜木晴代さん、四宮憲一郎さん、

杉本登さん、杉山耕二さん、田中克治さん、平川宏和さん、平田和子さん、平田範光さん、藤田秀憲さんの方々。

雨天順延となって14日の午後実りの森で行われた。参加者全員がイベントキャップを被って集まる。司会進行は富井さん。11名の名前が紹介され、鈴木会長から「入会された平成22年は市民参加型の活動団体が変わっていった頃。それぞれが力を十分発揮していただいた」と挨拶がある。続いて10年継続者を代表して平田範光さんが「80歳まで続けたいので、みなさんよろしく」と話された。「富有柿」の苗と小島さん手作りの銘板が贈られ、今年で3本目となる富有柿の苗が継続会員によって植樹された。



高さ約1.5mの立派な苗木である。数年経って美味しい柿の収穫を楽しみにしたい。

10年継続して会と共に過ごされた方々から感想を聞いてみた。

「10年は結構早く過ぎました。怪我をして休んだ時もあったけれど、みんないつも通り優しく迎えてくれました。主人と一緒にあったことも大きい。『行こう』と言ってもらえて続けられたところがあった」。

「前はもう少しのんびりするところがあって、どこのグループにも行った。工作をつくったり林内を歩いたりもした。今は人数が増えてそれが難しい。忙しくなっているように思う」。

「10年間楽しんできました。役をもっていただき準備もしていただいて、この会の活動を楽しませてもらっている。ありがたいことです」。



私のふるさと 東京都調布市

桜木 晴代

必ず「デンエンチョウフデスカ?」と聞かれ、「イエイエタダノチョウフデス」と答えるのが常。今は先に「ただの調布です」と答える。

だが、私が幼い頃の調布は田園だった。家の前は麦畑。春には雲雀のさえずり。冬の雪の朝は一面の銀世界。時には飛行機から撒かれる広告紙を追いかける広場に。漬物用の白菜洗いや洗濯する母の手伝いをした共同井戸。傍には毎年たくさんの美味しい実をつけ、誰でも採って良いイチジク。近所の仲間と日暮れまで木登りや隠れんぼなどで遊んだ寺の境内。子ども神輿を担いだ町内の路地。子どもも大人も全員が集う新年会。物がなくても、皆が助け合い、仲良く暮らすという良き時代を過ごした調布。

新宿から西へ20キロに位置する人口24万人(70年前は3万人)の住宅地。武蔵野台地と多摩川低地により構成される調布。名は租庸調の調で布を納めていた事に由来。布に関する地名が多く“多摩川にさらすてづくりさらさらに何ぞこの児のここだ愛しき”という万葉歌の句碑が布多天神にある。布多天神では、毎月25日に境内に市がたち、山麓鉄砲・綿菓子・海ほうずきなどを悩みに悩んで買った思い出が。舞台での神楽もワクワクしながら楽しんだ。

市の南に位置する多摩川。京王多摩川あたりでは渡し舟が行き来し、遊園地やプールも賑わったが今はなく、競輪場だけが残っている。夏には河原でスイカ割り。川ではメダカとりや水泳。母や近所の子と一日中遊びに興じた。また、花火大会も楽しみの一つであった。

当時は「東洋のハリウッド」と言われる程、映画産業が盛んで、川沿いには大映・日活の撮影所を始め関連会社が多く存在していた。今も観光資源や町おこしとしても活用されている。

北に向かうと、京王線が東西に走っている。市内には、仙川・つつじが丘・柴崎・国領・布田・調布・西調布・飛田給・京王多摩川の9つの駅がある。2012年には国領・布田・調布の3駅が地下になり、それぞれ駅前開発が進められている。(京王線は運賃が安いのが嬉しい)

市の中央には五街道の一つ甲州街道。本陣と脇本陣のない旅籠だけの小さな宿場・布田五宿があった。石器時代から平安時代までの遺跡や遺構が存在しており、鎌倉時代には幕府の直轄地「関東御分国」に含まれた。

1964年のオリンピックのマラソン及び競歩のルートに選定された事に伴い、新甲州街道が誕生。私は聖火リレーの随走者の一人として3区を走った。本番までの早朝練習や級友達の沿道での声援が懐かしい。駅前の不動産屋の店主が2区の主走者と知り、先日の上京時に訪ね、しばし当時の話で盛り上がった。店内には、よく磨かれたトーチが飾られていた。

更に北には、小学生の頃、近所の仲間とよく遊びに行った深大寺。白鳳時代の釈迦如来像・深大寺そば・だるま市などで知られる。子どもの足では1時間近くかかったと思うが、花を摘み、昆虫採集しながら、元気に、仲良く、時には歌いながら愉快地歩いた。

あたりは武蔵野の面影を残し、自然がいっぱい。緑地と呼ばれ、転がって遊んだ場所は、都立神代植物公園として都民の憩いの場となっている。

小さな市だが電気通信大学・小澤征爾や高嶋ちさ子を輩出した桐朋学園・白百合女子大学・慈恵会医科大学と4つの大学、公立・私立合わせて8つの高校がある。

ゆかりの人物としては、近藤勇・武者小路実篤・水木しげる・五味太郎など。味の素スタジアムや(最近では)住宅地の陥没が話題に。

いつ帰っても、懐かしい友と逢え、自然も残る居心地の良い大好きな調布。娘家族が暮らす実家は、上京時の私の定宿となっている。

ならやま里山林の来しかた、行く末

一緒に里山ボランティアしませんか！！

杉山 耕二

私は若い頃から、柳生までのウォーキングの都度、ならやまベースキャンプ（BC）を通っていた。滝坂の道から円成寺に抜ける細道は、鬱蒼とした放置人工林に両側から挟まれていた。ところが峠の茶屋を越えたあたりに見事に整備された森林があり、表示板を見ると針広混交林の実験施業地であるとの由。手を入れればこんなに素晴らしい森林になるのだなと実感した。

そんなことから、第2の人生は放置された森林の整備にボランティアとして、細やかながらも貢献したいという思いで、大阪のNPOが主催する森林ボランティア養成講座(森林大学)を受講して、以来森林整備活動に取り組んできた。ところがその団体は、地元奈良には活動地が無かったので、適当なところはないかと探していた頃、たまたま「ならやま」を通りかかると、丁度今のBCの整備初期の段階で、会員募集の看板を見て即入会し、昨年末で満11年を超えた。

その間、ならやま里山林の整備活動で取り組んできたことを、大まかにご紹介する。

くまずその大前提として>

ならやま活動地一帯は、昔は赤松を中心とした林分であったが戦後の燃料革命やマツ枯れ被害などの影響で赤松は殆ど枯死し、現在のコナラ、ソヨゴ、カシなどの雑木林に自然に遷移した。この現実を、まず我々が受け入れたうえで、かつ古都法に基づく維持・管理をしていく必要がある。(要は、派手な花木や果樹を植えてパッチワークのような里山にしてはいけない)

<第1期:基礎整備段階 2008年~2013年>

奈良県から受託したならやまの里山について、まず実態調査を行って整備方針を策定した。それに基づき活動を開始した時期である。調査の結果、管理受託したうち、ならやま里山林(里山林)は具体的に整備を実施することとし、残る

ならやま自然の森(自然の森)は、凍結的保存(要するに手を付けないこと)とした。

また、里山林(約5㍍)の整備に関する基本方針を以下のとおり策定した。

① 古都奈良の歴史的風土にふさわしい景観

形成活動を基本コンセプトとする。

② 豊かな自然の形成:具体的には里山生態系の保存と世代更新の確保を活動目標にする。

この方針に基づき、里山林を30区画(40m四方/0.16㍍×30区画=約5㍍)に区分して、枯損木・支障木・常緑樹・低層木の除伐、間伐等の整備活動を行った。

里山林整備というのは、人手を掛けて樹を伐るなど山に人為的攪乱を起こし、日陰に潜んでいた稚樹の生育促進や萌芽による自然再生、或いは植樹した樹を育成するということである。しかもそれを継続し続けることである。

当期では、全30区画の間伐整備とその中で3か所の部分皆伐も行い、萌芽試験を実施した。この結果、凍結的保存とした「自然の森」と比較すると、「里山林」は格段に明るく、きれいな里山に整備された。この時期の作業は手鋸や枝切り鋏での手作業が中心であった。そのため里山グループだけでなく全員で協働作業していた。しかし、大径木を伐採する世代更新は、未だ手付かずの状態課題として残った。これが後のカシナガ被害の助長にも繋がることとなった。

<第2期:植生の再生・更新とカシナガ被害対策 2014年~2018年>

前期で間伐と試験皆伐の両方を実施したが、間伐では萌芽や植樹木の育成に満足な結果を得られなかった。そのため2014年秋に経団連の補助を得て、皆伐エリアを実験区の5倍にした拡大皆伐(0.2㍍)に取り組んだ。この作業は危険を伴うこともあり、大阪のNPOボランティアの協力を得て実施した。この跡地を整理・地拵えして、DNAを守る観点から、ならやま採取したドングリから育てたクヌギ・コナラの苗木を約200本植樹し、約6年を経た現在、

若木として順調な生育を見ている。

一方この時期は、カシナガ被害とその対応に追われた時期でもあった。当初は種々の防御対策を実施したが自然の摂理には逆らえず、数年にわたり被害木の伐採、整理作業に翻弄された。

カシナガ発生の初期段階で被害確認のため最初のコナラ毎木調査を実施し、約2,000本を確認したが、2018年集計では約1,000本と半減した。この内訳はカシナガ被害以外の椎茸楯木用や経団連皆伐、自然災害での風倒木伐採などが合わせて約300本あるので、これを除いた約700本がカシナガ被害木であったと推測される。

また、林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策事業に参加するのを契機に、全30区画についてカシナガ被害木の伐採作業と、見た目きれいな森林整備（いわゆる手鋸作業）を並行して実施したことで、里山林全体30区画を第1期・2期と合わせて2回転整備したこととなった。なおカシナガ被害は、2017年の爆発的発生を最後に、その後はほぼ終息に向かった。

更にこれらカシナガ被害木の幹部分をエンジン付き薪割り機で加工し、ストーブ用薪として外部に販売するなど資源活用を図ってきた。

<第3期：現状 2019年以降>

里山林はコナラ枯死木の処理を終え、現状は植生の更新と再生に軸足を置きつつある。

その方法論として、前述のとおり部分皆伐して萌芽・植樹で更新していく方法を主体に、かつ手鋸、鋏の手作業による見た目きれいな里山整備をも並行して推進することを計画している。

部分皆伐の地区については、当面経団連皆伐地の東側を鳥観の丘に向かって作業を進めている。ただ現状における問題として、メンバーの高齢化と新規加入者が少なく、後継者の育成が進んでいないという大きな課題が残っている。

以上、これまでの経過と現状・課題を述べた。

<ところで>

最近、会員から里山グループには近寄りがた

い、という意見を聞く。これは前述のとおりここ数年にわたりカシナガ被害の大径木の伐採に携わってきた関係で、あたかも杵人のように映ったことは否めない。プロでも大径木の広葉樹伐採は危険な作業といわれており、そういう緊張感などが風体から発散していたと思われる。また、全ての会員は、何時でも、誰でも、何処へでも活動に参加できる権利があり、各グループはそれを受け入れるべき、という意見もある。本会の趣旨からするとそのとおりであろう。

<里山整備作業の特殊性>

ただそこには一定の条件が必要なこともある。特に、里山グループの作業（基本は樹を伐る）は危険を伴うものなので、そういうことを承知で、「顎・足・怪我は自前持ち」のボランティアとして参加し、里山を綺麗にしようという「志し」を持っていることが必要である。更に基礎的知識（会に小冊子あり）を一通り理解しておいてもらうことも必要である。里山ボランティアではよく「KY」能力を身に着ける必要性を説く。世間で言われている意味での「KY」と違って、危険予知能力のことで、これは自身の安全と協働作業、および傍観者（実はこれが一番問題）の安全を確保する重要な能力である。こう書いてくると、里山グループへの参加を拒んでいるように見えるが、決してそうではなく、まあ安全確保の転ばぬ先の杖と思って頂きたい。

里山整備には、樹を伐る作業に関連した軽微な作業は沢山あります。例えば、①伐倒した枝条の整理、整頓 ②チップ処理 ③苗の育成 ④植樹関連 ⑤薪割り ⑥椎茸関連 ⑦林縁部へのコバノミツバツツジ移植・育成 ⑧ロープワーク ⑨道具類、動力機器の操作・保守管理・・・など例を挙げるだけでも沢山の作業があるので、自分の好み、能力、体力に応じた作業を選んで参加してください。初めての方もマンツーマンで懇切丁寧に指導させていただきます。

里山ボランティアを共に楽しみましょう！

明るく、楽しく、無理をせず・・・

やさしい病害虫講座 40

ダイコン

油断すると被害甚大

木村 裕

家庭菜園のダイコンでは、8～9月に種をまいて11～12月に収穫するタイプが多いかと思いますが、その時期に発生する病害虫を紹介します。

【ダイコンシンクイムシ】

苗を間引くころに発生する厄介な害虫です。成虫は灰褐色の小さな蛾で無害ですが、その幼虫がダイコンの生長点の芯の部分に食い込んだり、葉を糸でつづって内側からかじります。とにかく芯の部分が大好きなもので、株全体が枯れてしまって被害甚大です。間引き作業の折に被害部分を開いて虫を捕殺すればよいのですが大変な作業です（病害虫講座-30 参照）。



【カブラハバチ】

苗を間引くころに長さ1～2cmの黒色のイモムシ（姿はアオムシ似ています）が葉をかじることがあります。手で捕えようとするとき丸くなって地面に落下して姿をくらまします。成虫は腰の部分にくびれがないハチで針も持っていません。また成虫のハチは巣をまったく作らず、ダイコンの葉の中に卵を産みっぱなしであとは何も世話をしません。間引き作業時に捕まえてください。大きくなったダイコン



では実害はありませんので無視。

【キスジノミハムシ】

ダイコンを収穫したとき、白い根部に浅い凹みや小さな穴がたくさんあいていることがあります。見た目が悪くて隣人にわかるのにも気がひけます。これは生育途中の段階で根の表面を虫にかじられたせいです。小さな白いウジが犯人ですが、似顔絵を片手に探してもまず見つからないでしょう。

成虫は小さな黒い甲虫（長さ2mm前後）で、背中に2本の黄色の縦帯の模様があります。後ろ足の太ももが大きく膨れていて、ピョンピョンと飛び跳ねます。ダイコンの葉をかじって小さな穴をあけるので、発芽直後の苗では被害が



大きいですが、おおきく育ったダイコンでは問題はありません。この虫の幼虫に根の表面をかじられて傷つくと、ダイコンの肥大とともに傷跡も大きくなって残ります。



【葉をかじる虫】

アオムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウなどが葉をかじって孔をあけます。発生に気付いたら早期に防除します（捕殺、薬剤散布）。

【根部の病害】

外見上きれいで美味しそうに見えるにも関わらず輪切りにすると中心部が黒く変色していて捨てざるをえないことがあります。外観でだまされ気分は最悪ですね。黒腐病、黒点病、萎黄病が原因ですが病原菌は地中にいるのでお手上げです。栽培する畑を変えましょう。



▲油彩 10号 「中登美団地の朝」 小田 進八郎



▲水彩画「ドテカボチャ」前 津久見



▲陶芸「猫たち」 小島 武雄

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

活動日： 毎週木曜日 9:00~15:00

(前日水曜日、19時前のNHKTV天気予報にて午前中の降雨確率

60%以上の場合は翌金曜日、木曜日の同予報も同様であれば金曜日中止)

場 所： 奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約16haの里山林地

アクセス： JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分

または、奈良交通バス亭「佐保台西口」又は「平城大橋」から徒歩7分

携行品など： 弁当、飲み物、軍手(作業用具は現地で用意)お椀、コップなど

お問い合わせ： 冨井



2月の活動について

4日： 協働活動日・アダプトプログラム

25日： 備品点検日

※ シイタケ菌打ちイベント 中止



2月 各グループ活動予定

グループ	活 動 予 定
里 山	植樹場所の穴掘り(協働作業)/檜木の作成・仮伏せ場所整備/下草刈り マキ割り/檜木の作成・運搬/植樹用苗木の準備/シイタケ菌打ち・植樹の準備/ユート:赤松実験区 松ツツジ枝打ち
エコファーム	冬野菜など収穫/冬野菜畑整備 寒起こし/チップ入れ/苗床ビニールハウス補修/じゃがいも畑畝作り/じゃがいもの植え付け
景 観	整備：ならやま大通り傾斜竹林の整備/ミツバチ巣箱の整備 ビオ：タナゴ池整備/池、水路整備 花班：アガパンサスの霜除、山野草園の整備・寒肥やり/西花壇の木の剪定、草取り整備/シラン園、桜の腐葉土入れ
パトロール	ミーティング/観察路整備、丸太階段更新/展望広場工事/植樹準備 パトロール：1-2-3-4
果 樹	器具収納倉庫の建設/B地区の斜面整備(コンポスト場所への転換) B地区杉等の伐採

行事案内

月例研修会のお知らせ

古代の官道 下ッ道

(石見～多神社) 散策



前回歩いた二階堂～羅生門跡の北部分から今回は石見～多神社までを歩きたいと思います。

下ッ道：奈良時代には飛鳥・藤原京と平城京をまっすぐ繋ぐ大道として盛んに利用されていました。丸山古墳より平城京朱雀門まで約23km道幅23mもありましたが、長岡京、平安京への遷都の後には衰退して維持されなくなりました。
多神社(多坐弥志理都比古神社)：神社の祭神は神武天皇・神八井耳命・神淳名川耳命(綏靖天皇)・姫御神(玉依姫)の四柱で、このうち神八井耳命は多氏の祖とされています。太安万侶も祀られていて多一族の出身であるといわれています。

〈実施要領〉

1. 日時：2月9日(火)
2. 交通機関：近鉄大和西大寺駅9:02発
近鉄橿原線 橿原神宮前行 石見駅9:29着
3. 集合：近鉄石見駅改札口 9:30
4. 雨天の場合：申し合わせ60%以上中止
5. 行程：石見駅9:40出発→唐古・鍵遺跡→今里杵築神社→安養寺→鏡作神社→本誓寺→津島神社(昼食)→多神社→近鉄新ノ口駅
15:30頃解散(歩行距離約9km)
6. 世話人：太田和則 福田美伸 富井忠雄
7. 連絡、申し込み：富井忠雄



下ッ道(古代) 中街道(近世)

*コロナウイルスの影響で中止、変更あり

仲間入りしました

巡り合い

飯島 八重子

10月12日に「自然観察」とネット検索し、たどり着いたのが「奈良・人と自然の会」です。10月15日にはスピード初参加、案内された里山は「何て素敵な場所!」の一言に尽きました。

入会後まだ4か月、活動日に里山周りの囁きに耳を澄ませば、様々な木々や畑の植物、池の生物たちが歓迎してくれてるように思え、「よかった!巡り合えて!」と独り言ち、「明るく、楽しく、無理をせず」の理念に甘えながら、これからも活動継続できますように。コロナ禍の中で入会できました事、感謝です。

即決しました

吉田 英子

池田さんのご紹介で、昨年10月より花班に入会いたしました。見学のつもりで参加した日、故郷を思わせる景色と、何より皆さんの活動ぶりを拝見し即決をいたしました。

毎週楽しみに来させていただいています。少しでもお手伝いが出来ればと思っていますのでどうぞよろしくお願いします。



3月ならやま活動&行事予告

- *ならやま活動(木) 活動あり
- *自然観察会 中止
- *歴文研修会 中止

2021年1月度幹事会報告

日時：2020年12月22日 10:00～

I. 会計、総務部より

1. 会員動向：会員数1名増の169名。
2. 会計報告：特段の問題なし

II. 活動・行事関係

1. 3カ月活動予定

- ① 自然観察会、蕎麦クラブ研修は中止
- ② 新春ならやま研修会概要
 - ・里山林整備の経緯と今後について、里山Gから説明
 - ・黒田先生からコメント含めた講演
 - ・質疑応答

2. ならやまプロジェクト関係

- ① 3月ころに草刈機の安全講習を実施
- ② 動力機器使用者の管理要領を検討中。
- ③ 植樹計画確認

植樹後の育成状況は果樹Gが監視

3. 新春初出式、10年継続会員記念植樹式 七草粥のみ提供。

4. 12月17日の里山研修は有意義であった、 今後各Gでもそれぞれの活動意義を再確認し、 他のグループに活動の状況を知ってもらえる取り組みをしてはどうか？

III. 企画、助成関係事業案件

1. 記念モニュメントについて学生とオンライン会議を行う予定
2. 各種助成金交付金事業については年度末にかけて完遂予定

IV. 提案事項

1. 来年度活動計画と必要経費についての申請：1月24日までに
2. 今後のコロナ対策
奈良県、奈良市の判断を基準として対応。
可能な限り活動は継続するが、参加不参加は会員各人のご自身を取り巻く状況に対する慎重な判断にゆだねる。

実習生受け入れは当面中止。

次回2月度幹事会は1月26日



<一枚の年賀状>

12月になるとまた今年も年賀状を書かなくちゃ・面倒くさいなあと思う。なのに元旦に届く年賀状は楽しみにしている、勝手なものだ。

その中に忘れられない一枚がある。もう20年近く前になるが、ある高校の卒業式に、生徒の母親の付き添いで参加したことがある。その母親は耳が聞こえない聾者です。式の内容を伝える役目だった。

多くの父母が演壇を見上げている中で私は背を向けて母親と向き合った。母親はひたすら私の表情と手の動きから式の進行を理解しようとしている。校長先生の話の内容は忘れたが、多分今まで立派に子どもさんを育てられた親御さんたちにも話しかけられていたのだろう。

私は不意に目の前が曇ってポロポロと涙が落ちてしまった。耳が聞こえない母親の苦労を想像してしまったのだ。ごめん、と言いながら続けたが申し訳ない気持ちでいっぱいになった。

そんなことがあった母親とずっと年賀状のやりとりが続いている。今では小学生らしいお孫さん二人の写真入りの年賀状になっている。あの高校生が父親になっている。たった一度の出会いだった母親、今では顔さえ思い出せないが、年に一度の年賀状で繋がっている。

(為合子)

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

表紙写真：

みんなで優しく剪定した梅、今年もたくさんの実が・・・

古川さん指導のもとみんなで剪定。会報誌発行の頃には、春を呼ぶかわいい花が咲いていることでしょう。